

『 交通から交流へ
未来をつくるファブリック 』

今治市の新しい中心となり、かつ新しい顔となるような、大きな一枚の柔らかなプレート<ICPC広場>を私達は提案します。このプレートは、ICPCや海事ビジネスセンターを含む建築物であり、同時に交通ターミナルや市民広場、沖洲公園などを含む都市空間でもあります。建築と都市が統合され、交通空間と人々が憩う交流空間とが統合された、新しい公共空間です。あらゆる人々に、そして周辺環境につながってゆく開放的な空間です。この全長600Mの大きな一枚のプレートは、市民広場の床となったり、また交通ターミナルを覆う大屋根となったりと、場所場所の異なる機能・要求に応じて、一枚のファブリックのように柔らかな形を変え、材料を変えながら、全体として一つの強いシンボルを作り上げ、今治内港のみならず今治市全体の新しいランドマークとなります。

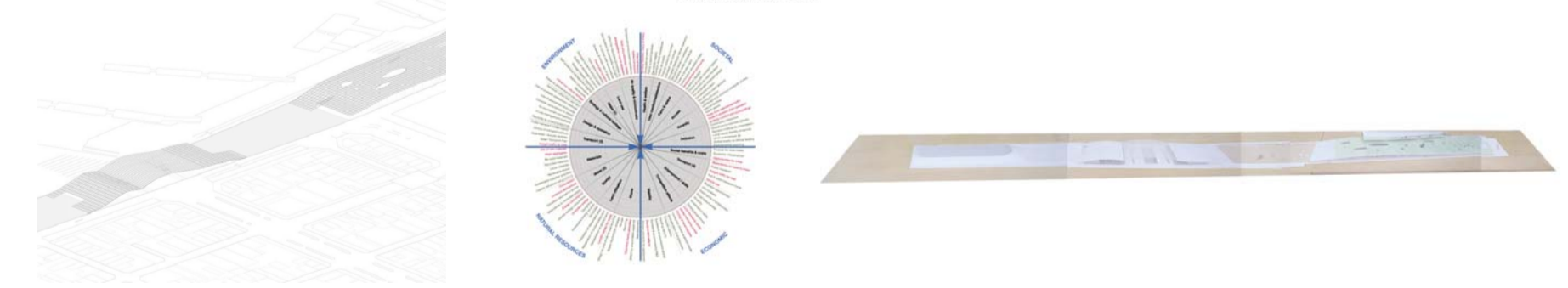
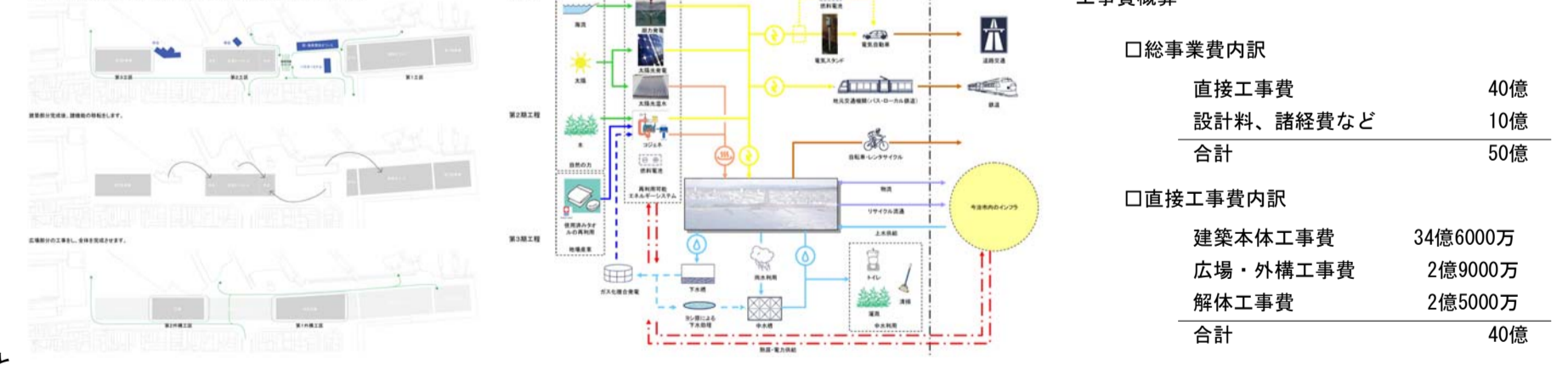
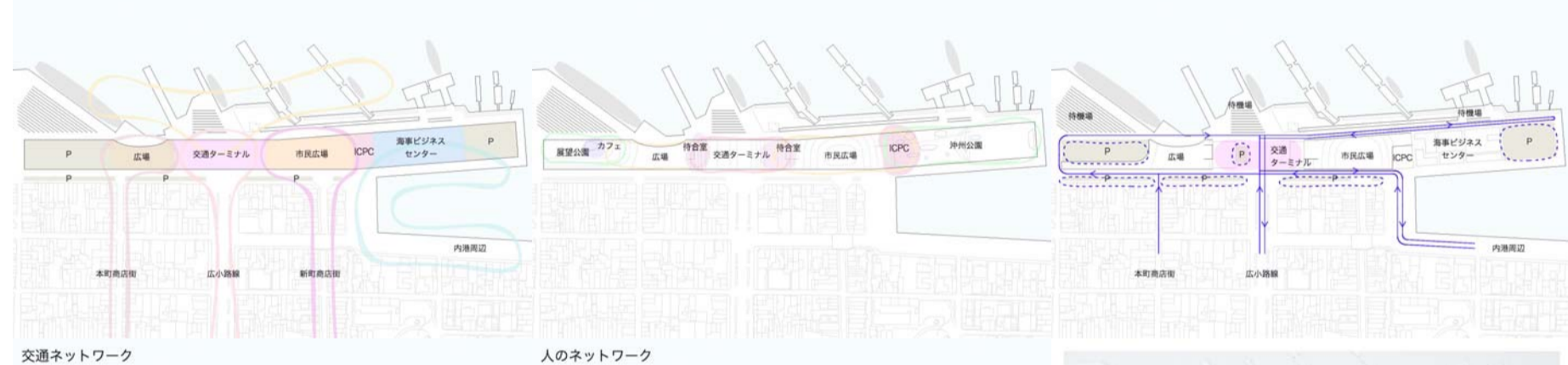
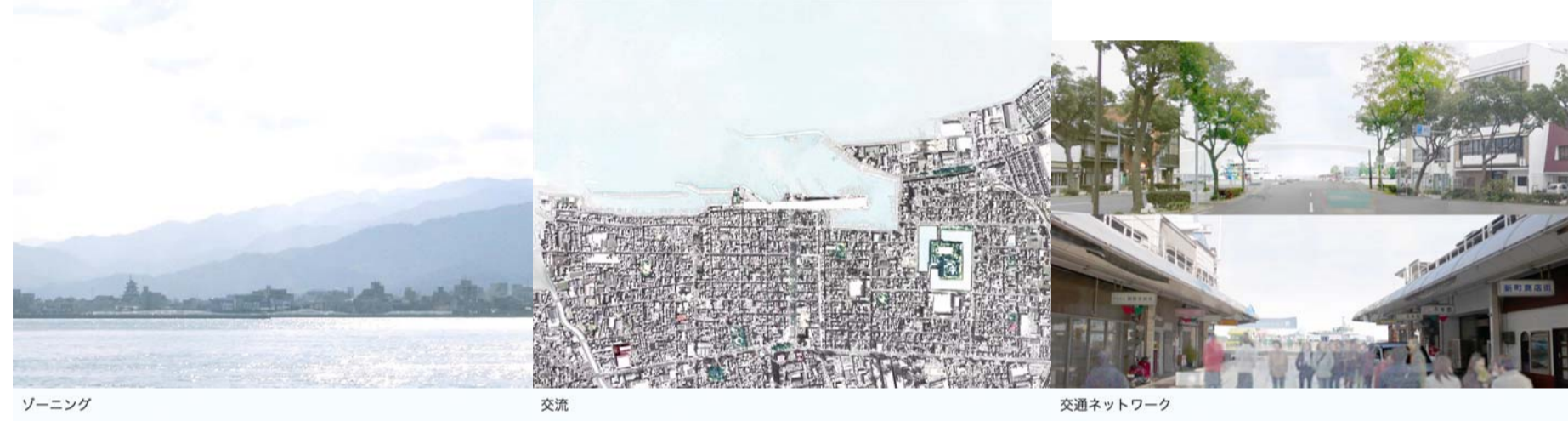
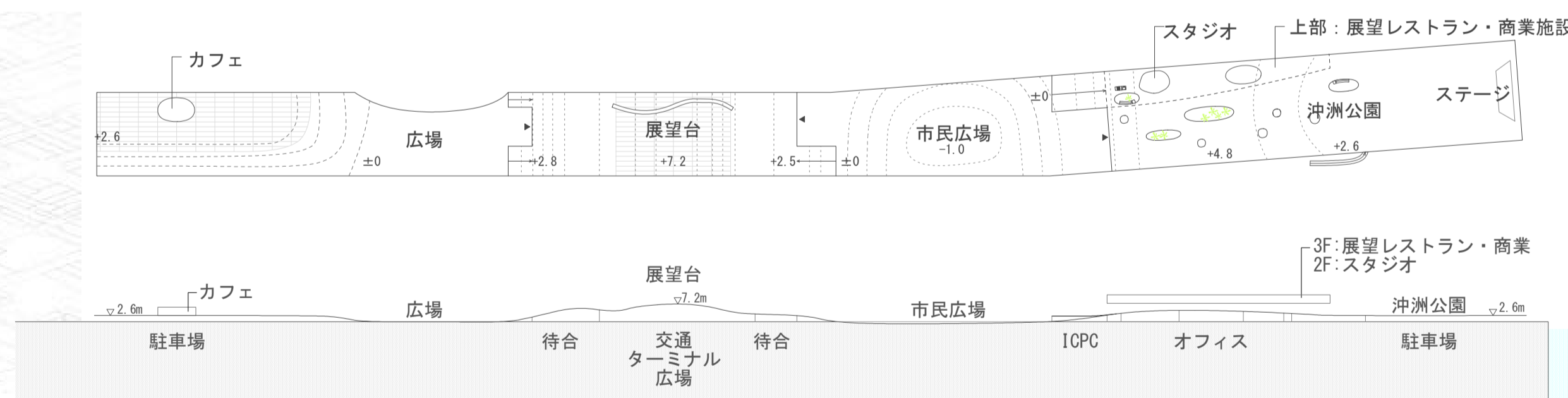
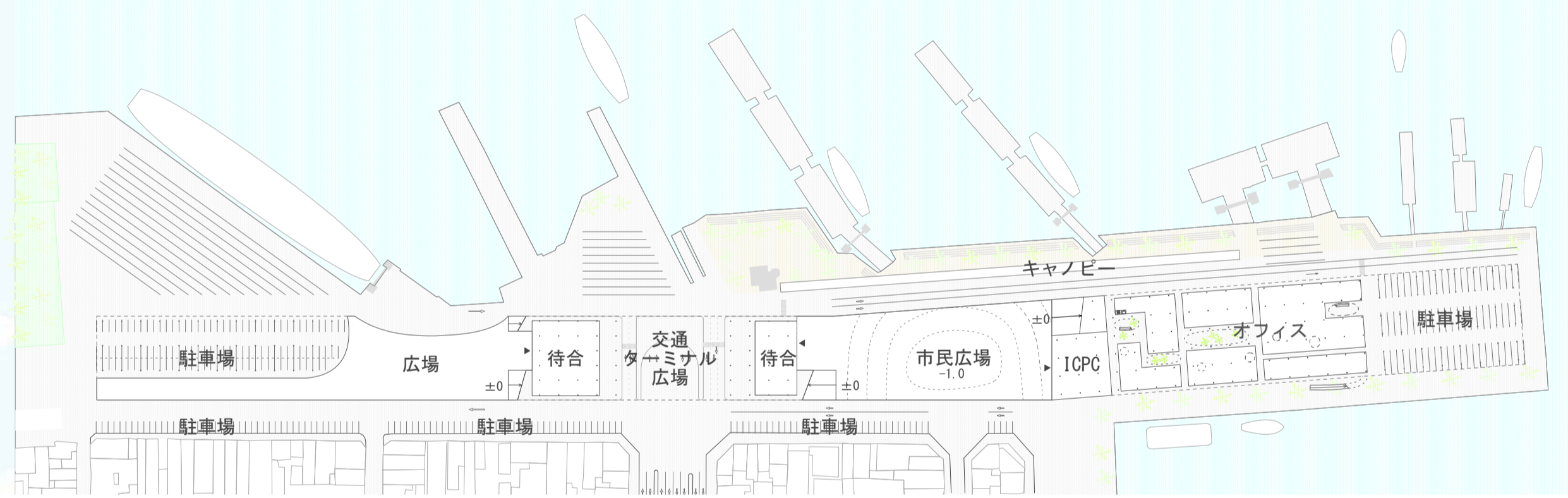
人々の広場<ICPC広場>

一枚のプレートが上下しながら、車と人を明確に分け、プレート上に人々のためのバリアフリーな大きな広場空間を創出します。



水平的シンボル=未来のシンボル

高く地面から垂直した20世紀型のシンボルタワーではなく、地面に近く人々に開かれ、地域と連続する、誰でも参加可能な開放的シンボル。新しい時代のシンボルです。多様な材料によって仕上げられたファブリックのようなプレート面が光を受けて、海面のような多様性を持った未来のイメージを創出します。



- 1 陸上と海上の交通効果的なネットワーク化についての提案
計画全体の中心に、海上交通ターミナルと陸上の交通ターミナルとを統合して配置し、陸上海上交通のより効果的なネットワークを実現します。+駐車場を分散配置。
- 2 棧橋へのアプローチを考慮した動線づくりについての提案
中心に配置された交通ターミナルに隣接して、乗船待合+発券所を計画。+各棧橋まで屋根付き歩廊を配備。わかりやすい動線計画を実現。
- 3 海事ビジネスセンター施設についての提案
海事ビジネスセンターは三層から成ります。水に近く、街に近い一階。沖洲公園、市民広場と連続する二階。眺望のよい三階。
一階は、平面的な広がりを持つ。拡張可能性を持つ。
4 今治シビックプライドセンターの整備についての提案
商店街と連続する市民広場に隣接して、ICPCは配置されます。ICPCを中心に、スタジオやカフェなどが全体に広がってゆき、より多様な交流が生まれます。

- 5 シンボリックで魅力的な景観、空間形成についての提案
水平的シンボル。新しい時代のシンボル。
海と陸を密接につなぐ水平的なシンボルは、世界有数の海事都市を象徴する都市空間となるでしょう。
- 6 世界有数の海事都市として、人・もの・情報の交流拠点についての提案
全体に広がる<ICPC広場>は、町や海に密接につながっており、かつ交通ネットワークや人々の交流空間を合わせ持つことで、人・もの・情報が交流するプラットフォームとしての多様な役割を実現します。
- 7 市民や来訪者が港や海を楽しむことができる空間づくりの提案
あらゆるところで町と接しており、みんなが気軽に憩うことができる。海のどこから来ても、街のどこから来ても、必ず受け入れられる場所です。
<ICPC広場>はいろんなレベルを持っていて、海をいろんな高さから楽しむことができる。
- 8 需給バランスを考慮し、適正規模の駐車場の配置についての提案
分散配置されており、フェリー乗降客だけのためではなく、商店街や広小路、内港広場に訪れる人々も利用できる。

工事費概算

□総事業費内訳	
直接工事費	40億
設計料、諸経費など	10億
合計	50億
□直接工事費内訳	
建築本体工事費	34億6000万
広場・外構工事費	2億9000万
解体工事費	2億5000万
合計	40億

